

# 国語科における言葉の力とコミュニケーション力を育むための指導方法 — 「連歌にチャレンジ!」 —

「座の文学」である連歌を中学校の国語科授業に取り入れることにより、以下の2点において一定の効果があるものと考えて実践をおこなった。

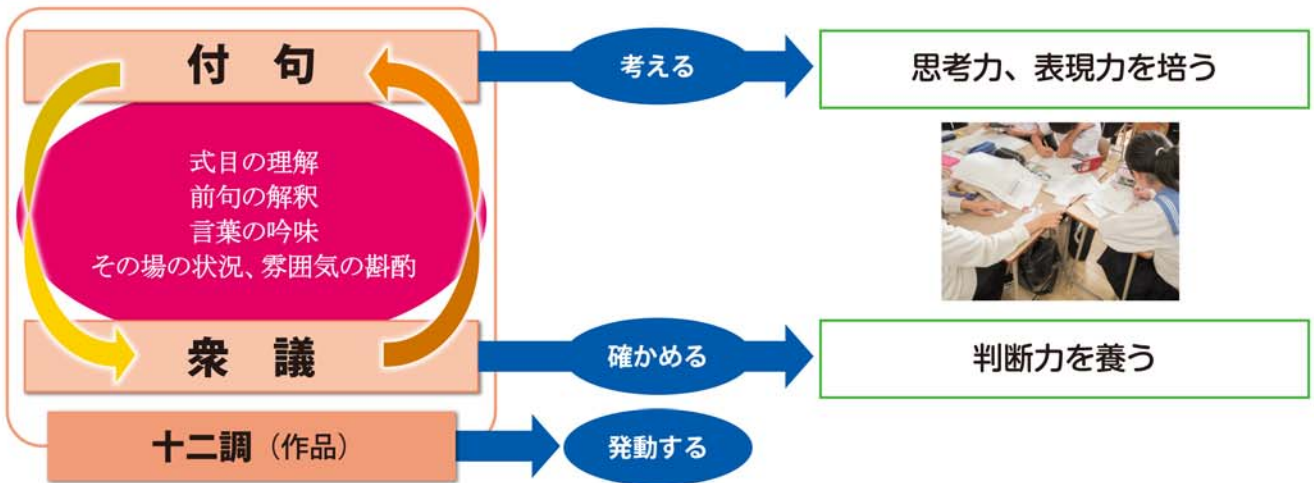
- ① 言葉(日本語)の持っている力の意識化
- ② 他者とのコミュニケーション力の育成

## 連歌

「座の文学」  
個人での創作ではなく複数人数での創作によって作品が完成する

## 国語科

コミュニケーション力の育成



■作者による解説  
つめたい牡丹雪があたたかい涙にとけ、ほほを伝うイメージ。

■作者による解説  
社の中の夜の静かなおそかな雰囲気がある句で表されていたので、その中で誰の透き通る声があたり一面に広がるのがイメージできた。  
「澄みわたる」一月の光がもっと引き立つ。

■作者が創作時に注意したこと  
前句とのつながり。ユニークなアイデア。

第	11	10	9	8	7	6	5	4	3	脇	第	1	2
句	花	春	春	春	雑	雑	雑	冬	冬	雑	秋	秋	季
題	燕のこゝとく生きる喜び	春雨に打たるる花の強くあり	源とともに水き日は過ぎ	山風に重ねた気持ちふきし日に	のちに再び会うこともあり	みなすべてわが身のうちに留め置きて	君思ふ恋社へと消えて	牡丹雪涙にとけて流るらん	時雨のときもや残りけり	空をこえ天にとらげばかがやきて	鹿鳴く声の澄みわたる峯	杜の木々いささか寒しなごり月	賦 應 何 連 歌 十 二 調
作者	A	E	C	D	B	A	E	D	C	B	A	裕 雄	作者

■作者が創作時に注意したこと  
臭いなどあらゆる情報の中から、前の句とのつながりを意識してつくった。

■他の座の連衆による感想  
▽「涙にとけて」がきれいな表現だと思ったからです。  
▽牡丹雪という面白いイメージがある。それが涙で流れるということは、たくさん泣いたんだろな、と想像できるのでこの句を選んだ。  
▽季節が変われば、牡丹雪もとけるし、恋物語なので、失恋してしまったのか分からないけれど、悲しい様子は伝わってきた。

■他の座の連衆による感想  
▽澄みわたるというのが、山などの音がさざざららない感じをあらわしてよかった。山の動物を使っているところも自然観が出てよかった。  
▽「澄みわたる」から、とても静かな感じで、情景が思い浮かべやすくて上手だと思った。  
▽このたった十四文字で、山に広がっている壮大な自然を感じられる。

